



学校教育目標 かしこく たくましく 心豊かな 児童の育成
目指す児童像 瞳・笑顔・汗・会話 きらきら輝く 鈴谷の子

令和6年4月30日号
家庭数配付

鈴谷小だより

令和6年度 第2号

鈴谷小Webページアドレス

さいたま市立鈴谷小学校 ☎852-5675

<https://suzuya-e.saitama-city.ed.jp/>



旅の仲間

校長 中田 清人

ロールプレイングゲームの名作「ドラゴンクエスト」シリーズの優れた点の一つは、登場するキャラクターがそれぞれ万能ではないところにあると思います。つまり、一人ひとは、得意なことがあるとともにできないことがあるのです。

プレイヤーは主人公となってプレイするのですが、ゲームが進行するにつれ、仲間と合流していきます。仲間には、「戦士」や「魔法使い」、「僧侶」などの「職業（役割）」があり、それぞれに特性が違います。戦士は、腕力に優れ戦闘力が強いのですが、魔法が使えません。魔法使いは、攻撃魔法が得意ですが、腕力が弱く肉弾戦には向きません。僧侶は、体力を回復するなどの魔法が得意で、戦闘力が少しあるものの、腕力では戦士にかなわず、攻撃魔法もあまり使えません。しかし、できないことがあるのはマイナスにはなりません。このチームは「旅の仲間」として、互いに助け合いながら謎を解いたり、敵を倒したりして問題を解決していきます。一人ひとりの特性が、他のメンバーにはない強みとなり、できることを結集させることで、強力なチームとなります。

学校にも同じような側面があります。全ての教職員には様々な役割があり、一人ひとりそれぞれに個性や特性があり、互いに尊重しながら補い合って、仕事を進めています。また、各学年や学級等でも子ども達一人ひとりに個性や特性があり、互いに尊重しながら、学習や学校生活を進めています。

私は、本校の教職員にこう投げかけています。「どんなに小さい思われる仕事であっても、すべては学校の教育目標の具現化、子ども達の成長に向かっていきます。ですから、ご自身の仕事を取るに足らない仕事とは思わないでもらいたい。仕事に貴賤はありません。」「お仕事の方向性をぜひ、学校の教育目標の具現化に向けてほしい。」「お一人お一人が、子ども達のために、かけがえのないスタッフです。」と。このことは、各学年や学級等の子ども達にとっても相似形です。つまり目標を学習のゴールに、教職員をそのまま子ども達に置き換えることができます。

この考え方や思いを保護者・地域の皆さんとも改めて共有したいと、私は願っています。子ども達一人ひとりも、それぞれに個性をもち、その子にしかない特性があり、それは尊重されるべきものだ。その子の特性が集団の中で強みとして生かされ、強力なチームとなってほしい。できないことは、できるようになることに越したことはありませんが、それが本人の意思や努力によってどうしようもないとき、そこに目を向けるべきではありません。むしろ、できることに焦点を当て、強みを生かす方法を考えるべきです。

このような集団作りが、子ども達にさらに力をつけ、互いに尊重し思いやりの心を育てることにつながるのだと思います。こうした集団の中で、共通する目標に向け、自身が集団に貢献していると実感できるとき、尊重されていると感じられるとき、力を付けられたと感じられたとき、「幸せ」を感じることができると思うのです。そして、この幸せの実現は子ども達、保護者・地域の皆様、そして教職員が共通して願っていることです。幸いなことに、鈴谷小学校にはこうした風土がすでにできあがっていると感じます。大変ありがたいことです。

子ども達の教育においては、判断に悩むこともありますが、こうして鈴谷小学校で出会えたのも何かの縁。ぜひ、保護者・地域の皆さんには我々教職員を「旅の仲間」としていただき、互いに尊重しながら、それぞれの役割や立場でできることを生かして子ども達を育ててまいりましょう。